

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 12 月 27 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/27 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	19.4 °C	105.1 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.07 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m ³ /h	27.7 °C	7.42 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	26.9 °C	0.23 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

*1：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

・H25/12/27 7:48 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ [12/27 7:50 時点]: 気温 5.1°C、湿度 93.1%)
※ プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。

【2号機原子炉注水流量変更】

・H25/12/27 11:25~11:32 炉心スプレイ系からの注水量を 3.4m³/h から 3.5m³/h、給水系からの注水量を 1.8m³/h から 2.0m³/hへ変更。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/27 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	12.1 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	11.2 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	18.2 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/11/18 15:18~ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。なお、同作業は平成 26 年末頃まで行う予定。
- ・H25/12/27 12:00 頃 4号機使用済燃料プール内の変形燃料調査において、当該燃料集合体のチャンネルボックス側面にひびらしきものを確認。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	12/17 16:00 ~ 移送実施中

- ・H25/12/26 10:12~17:00 集中廃棄物処理施設において、サイトバンカ建屋からプロセス主建屋へたまり水の移送を実施。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (12/27 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

- *2 当面は、3系列のうち2系列による運転を実施することで2系列運転の稼働率を向上させていくこととし、準備が整い次第、3系列の同時運転を実施予定。
- ・B系：平成26年1月下旬頃（予定）に腐食対策有効性確認のため、処理運転を停止予定。
- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5. その他 >

- ・H25/12/18 22:20 頃 協力企業作業員がFエリアタンク（5, 6号機北側）のパトロールを実施していたところ、C5タンクとC6タンク連絡管（C5タンク側）のフランジ部（継手部）より水が約1分に1滴ほど滴下していることを発見。その後、タンク側ゴムリング接続面の発錆（腐食）により僅かな隙間が発生し、微少リークに至ったものと原因を推定。対策として接続面の手入れ、コーキング材の塗布および内部ゴムリングの交換を実施。
- H25/12/26 11:00 頃 当該フランジ部（継手部）補修後の漏えい確認を行うためにC5タンクに水張り（5, 6号機タービン建屋地下滞留水）をしたところ、C5タンクの水平フランジ部（下から一枚目の側板と二枚目の側板の間）より3秒に1滴程度、水が漏えいしていることを当社社員が発見。なお、漏えい箇所の下には漏えい確認のためシートにて養生しており、堰内床面には漏えいした水は滴下していない。また、漏えいを確認した際、C5タンクの別の箇所（1箇所）において、水のにじみを確認。その後、C5タンク内の水をC6タンクへ移送し、14:15当該水平フランジ部からの漏えいおよびにじみが停止していることを確認。
C5タンク内の水の分析結果は以下の通り。
 - ・セシウム 134 : 34 Bq/L
 - ・セシウム 137 : 93 Bq/L
 - ・コバルト 60 : 26 Bq/L
 また、当該水平フランジ部の漏えい箇所付近のボルトに損傷があることを確認しているが、引き続き点検を行う。
- ・H25/12/27 9:32 頃 H4エリアにおいて、作業員が大型土のう袋運搬中に右足を挫いて負傷したことから、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受け、右足腓骨骨折と診断された。その後、患部の固定を行い、業務車にて福島労災病院（いわき市）に搬送され、再度医師の診察を受けた結果、手術が必要であると判断されたため入院することとなった。なお、作業員に身体汚染はなかった。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

<タンクエリアパトロール実績（12/26）>

- ・高線量当量率箇所（β+γ線（70μm線量当量率））は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・12月24日に堰内水位の低下が確認されたH4タンクエリアおよびH4東タンクエリアの堰内水位の低下を除き、目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1, 2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット（南）地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は12/26 0:00時点で約6,695m³ *集水ピット（南）およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・今回新たに採取した地下水観測孔 No. 2-2 の測定結果（12/25 採取）の分析を実施。
 - ・セシウム 134 : 11 Bq/L
 - ・セシウム 137 : 26 Bq/L
 - ・全ベータ : 520 Bq/L

- ・トリチウム : 560 Bq/L
- ・12月26日に採取した地下水観測孔No. 1-11について、全ベータの測定値が前回値と比較して高い値を検出。
[地下水観測孔No. 1-11の測定結果]
今回：12月26日採取分
 - ・セシウム134 : 0.72 Bq/L
 - ・セシウム137 : 1.4 Bq/L
 - ・全ベータ : 2,300 Bq/L
 前回：12月23日採取分
 - ・セシウム134 : 0.45 Bq/L
 - ・セシウム137 : 0.93 Bq/L
 - ・全ベータ : 検出限界値未満 (検出限界値 : 24 Bq/L)
 地下水観測孔 No. 1-11 は、1, 2号機間の地盤改良箇所の内側であり、当該エリア内については全ベータが高いレベルで検出されている地点もあることから、そこからの影響も考えられる。再度試料採取、分析を行い状況を確認する。
- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して有意な変動なし。

<移送関係>

- ・2, 3号機東側に設置したウェルポイント (バキュームによる強制的な排水設備) からの地下水汲み上げおよび2号機タービン建屋への移送を適宜実施中。
- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No. 0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No. 1 の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23～ 地下貯水槽 No. 6 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/15～ 地下貯水槽 No. 5 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/19～ 地下貯水槽 No. 1 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/11/28～ 地下貯水槽 No. 3 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/7～ 地下貯水槽 No. 2 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/12/16～ 地下貯水槽 No. 7 において浮き上がり対策を実施中。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・12月26日に採取した地下貯水槽観測孔 A1 について、全ベータの測定値が前回値と比較して高い値を検出。塩素濃度は前回値と比較して大きな変動は確認されていない。
[地下貯水槽観測孔 A1 の測定結果]
今回：12月26日採取分
 - ・全ベータ : 1.3 Bq/cm³
 - ・塩素濃度 : 9 ppm
 前回：12月25日採取分
 - ・全ベータ : 検出限界値未満 (検出限界値 : 2.8×10^{-2} Bq/cm³)
 - ・塩素濃度 : 7 ppm
 A1 以外の 21 箇所 (A2～A19, B1～B3) については塩素濃度および全ベータともに前回値と比較して大きな変動は確認されていない。このため、試料採取、分析過程で汚染物質の混入の可能性があるため、再度試料採取、分析を行い状況を確認する。
- ・その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上